

## 母親のソーシャルスキルと大学生による 母親の養育態度の評価との関連

小野夏月\*<sup>1</sup> 中村有里\*<sup>2</sup> 福岡欣治\*<sup>2</sup>

### 要 約

母親自身の回答によるソーシャルスキルと、その子どもである大学生の回答による母親の養育態度との関連を調べた。参加者は大学生とその母親64組であった。回答者はX大学の授業終了時に募集された。説明に同意した大学生は本人用と母親用の調査票を持ち帰り、母親用の調査票は本人により密封された封筒に入れ、本人用とは別に回収された。調査は無記名でおこなわれた。養育態度の測度は「情愛」「依存期待」「決定尊重」の3下位尺度からなっていた。ソーシャルスキルの測度は、コミュニケーション・スキルと対人スキルそれぞれ3つの下位尺度からなり、前者の下位尺度は「解読」「記号化」「感情統制」であった。後者については、信頼性分析の結果、「関係開始」「主張性」の2尺度が分析に用いられた。相関分析をふまえた構造方程式モデリングによるパス解析の結果、コミュニケーション・スキルの「記号化」から対人スキルの「関係開始」を介した「決定尊重」への効果をもっとも顕著であった。これ以外にも、ソーシャルスキルから「情愛」を含む養育態度に対する幾つかの有意な直接および間接の効果が認められた。これらの結果は、母親のソーシャルスキルが、優しさや温かみを感じられる養育態度と、子どもの意思を尊重する養育態度の基礎であることを示唆しており、子どもの社会的適応に対する養育態度の影響が想定された。

### 1. 緒言

#### 1.1 母親の養育態度と子どもへの影響

近年、適切な養育態度を身につけることの難しさが指摘されている。家庭や家族を取り巻く社会状況の変化によりライフスタイルや意識が多様化し、放任または過保護・過干渉といった二極化した養育態度が問題となっている<sup>1)</sup>。また、渡辺<sup>2)</sup>は近年の人間関係の希薄化が子育てに多大な影響をもたらしていることを述べており、適切な養育態度を身につける機会が減っていることを示唆している。

養育態度とは、親が子どもを育てるにあたって、意図的あるいは無意図的にとる一般態度・行動のことである<sup>3)</sup>。母親の養育態度は、子どもの社会的発達に大きな影響を与えると考えられている。すなわち、養育態度が適切であれば発達が促進されるが、不適切であれば発達が阻害される。たとえば、母親が受容的な養育態度であると家庭における幼児の不注意・多動や攻撃行動は低く<sup>4)</sup>、また青年が評価し

た母親の受容的な養育態度は、青年自身の「協調性」と有意な相関を示す<sup>5)</sup>。他方、母親の過保護な養育態度は幼児の家庭における攻撃行動の多さと関連しており<sup>6)</sup>、親から過干渉的に育てられたと認識された子どもほど劣等感が強い<sup>7)</sup>。このような親の養育態度と子どもの社会的発達との関連性についての知見をふまえると、親の養育態度は、子どもの社会的発達への影響を前提として検討すべきであると考えられる。

北村<sup>8)</sup>によると、親子関係とは、親と子どもが互いに影響し合うものである。北村<sup>8)</sup>は、親の態度を子どもがどう認知したかによって子どもの親への態度が変わるため、子どもが親の養育態度をどのように認知しているか、ということが親子関係において重要であると述べている。

村井<sup>9)</sup>は、育児態度検査で子どもが回答する形式の質問紙が多く使われている理由として、子どもの問題行動が「子どもから見た親の養育態度」に関係

\*1 川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 臨床心理学専攻

\*2 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科

(連絡先) 小野夏月 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

E-mail : w5218010@kwmw.jp

しており、母親自身の回答は明確な関連性がみられないことを挙げている。このように、子どもの社会的発達への影響に関連し得る要因として養育態度を取り上げる場合、子どもにより母親の養育態度がどのように評価されているか、という子どもの側の認知が重要であると考えられる。

### 1.2 母親のソーシャルスキルと養育態度

渡辺<sup>2)</sup>は近年、人間関係の希薄化が子育てに多大な影響をもたらしているため、このような時代背景から現代の親子は積極的にソーシャルスキルを学び身につける必要があると述べている。ソーシャルスキルとは「対人関係における自らの目標達成をめざして、相手に適切かつ効果的に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人反応」であり、ソーシャルスキルの高さは円滑な対人関係の獲得・維持に寄与するという性質をもつ<sup>10)</sup>。ソーシャルスキルには、様々な対人関係に共通して発揮し得る汎用性をもつ(特定の相手との関係のみに限定されない)と考えられる。ソーシャルスキルの獲得が、親子がともに学び身につけるべきものとされるのは、そのような汎用性の故であると思われる。

渡辺<sup>2)</sup>は、親として子どもにかかわる際に「ソーシャルスキル」が重要であると述べ、子どもの社会化そして発達課題の克服のために、親自身が基本となるソーシャルスキルを獲得しておく必要があることを指摘している。そして、子ども自身が他者と適切にコミュニケーションを取ることができるようになるために、親が子どもに対してソーシャルスキルを少しずつ伝えていく必要があるという。

他方、このような親が子どもに対して意図的および無意図的に働きかける行動は、養育態度としてもとらえることが可能であると考えられる。養育態度は「子どもの養育」という特定の関係における特定の方向性をもった行為を指すため、それ自体はソーシャルスキルと異なる別概念として扱うべきであると考えられる。しかし、対人関係を円滑に営む技術としてのソーシャルスキルが高ければ、子どもという特定の対象への養育という特定の目的をもった行動もまた、適切なものになる可能性がある。

以上のように、親のソーシャルスキルと養育態度との間には一定の関連性があると考えられる。しかし、このような観点からの研究は従来おこなわれていない。特に、親自身の評価するソーシャルスキルと、子どもにとって重要であると考えられる、子どもが評価する親の養育態度との関連は、未着手の課題である。

### 1.3 養育態度とソーシャルスキルの構成要素

ソーシャルスキルと養育態度のような特定の対人

行動との関連を検討する上で、それぞれの概念に含まれる種々の要素における特徴を考慮しておく必要がある。

養育態度の次元としてよく知られているのは「愛情」と「統制」であり、前者は受容から拒否、後者は干渉から放任の極を持つ<sup>11)</sup>。たとえばParker et al.<sup>12)</sup>のPBI (Parental Bonding Instrument) は、前者に対応する「Care」と後者に対応する「Overprotection」の2尺度で開発されている。ただし、これらを基本としつつ実際の養育態度はより多次元的に把握される場合もあり、たとえば井上<sup>13)</sup>はPBIをもとにした尺度の因子分析から「情愛」「依存期待」「決定尊重」の3次元を抽出している。「情愛」は子どもと話し合っただけで子どもの問題や悩みを理解し優しさや温かみを与えられる養育態度、「依存期待」はいつまでも自分の子どもとしてコントロールしようとする養育態度、「決定尊重」は子どもの意思を尊重して自由であることを認める養育態度である。なお、井上らの3次元のうち「依存期待」「決定尊重」は、PBIの「Overprotection」を区分した内容となっている。

ソーシャルスキルとして提案されている要素の中には、さまざまな種類の対人行動を支えるコミュニケーション能力としての要素(基礎ないし基本スキル; 記号化や解読など)と、対人関係の形成と発展の中で具体的に発揮される行動としての要素(対人スキル; 関係の開始や維持など)の両方が含まれている。相川と藤田<sup>14)</sup>は、ソーシャルスキルの多面的な性質をふまえて、コミュニケーションスキルと対人スキルという下位区分を提案している。相川と藤田<sup>14)</sup>によれば、コミュニケーションスキルとは「記号化」や「解読」、「感情統制」からなり、対人スキルは「関係開始」、「関係維持」、「主張性」などからなる。前者のうち、「記号化」は相手に自分の意思を伝えるためのスキル、「解読」は相手の意思を受け取るためのスキル、「感情統制」とは自分の感情に対処するためのスキルである。また後者のうち、「関係開始」は初対面の人が出会ったときに必要とされるスキル、「関係維持」は相手の立場を考えつつ葛藤を処理することのできるスキル、「主張性」は相手の意思を尊重しつつ自分の意思を相手に伝えるスキルである。

### 1.4 本研究の目的

本研究では、以上のような先行研究をふまえた検討をもとに、大学生とその母親を対象として、母親自身の回答するソーシャルスキルと大学生が評価する養育態度との関連を検討する。本研究では、母親の養育態度がソーシャルスキルによって影響を受けるものとする。もしもそうであれば、養育態度は

スキルという学習性のものによって左右されることになり、将来の養育態度をよりよいものにするためにそれ以前のソーシャルスキルの形成や改善が役立つことになる。養育態度が子どもの社会的発達と関連するという従来の知見にもとづけば、親のもつソーシャルスキルという視点から子どもの社会的発達を考えることも可能になるであろう。なお、どのような内容のソーシャルスキルが養育態度のどのような次元と関連するかについては、従来それを直接に指摘する論考や実証研究がないため、本研究は探索的な検討にとどまる。ただし、藤本と大坊<sup>15)</sup>の指摘にもとづけば、コミュニケーション・スキルが対人スキルの基盤にあることから、対象者への直接の行動を表す対人スキルの方が、子どもという特定の対象への行動である養育態度と相対的により強い関連性をもつことが予想される。そして、ソーシャルスキルと養育態度それぞれの構成要素の性質をふまえば、自分のみならず相手の意向も尊重することを含む「主張性」や新しい関係を適切に構築することができる「関係開始」のスキルは、子どもの意思を受け入れ自由であることを認める「決定尊重」の養育態度と正の関連をもつのではないかと思われる。他方、「関係開始」のスキルが高い場合、子ども以外にも多くの関係をもつことが可能になるため、子どもとの関係を依存的なままにしようとする養育態度の「依存期待」とは負の関連をもつことが考えられる。また、葛藤を乗り越え良好な関係を保つ「関係維持」のスキルは、子どもを受容し温かく接する「情愛」の養育態度と結びついている可能性があると思われる。

## 2. 方法

### 2.1 調査対象者

調査は実家に住んでいる大学生とその母親を対象とし、一人暮らしをしている大学生は対象外とした。大学生とその母親の200組を対象に調査を行い、65組から回答を得た。そのうち1項目でも未回答があるものは不備とした結果、有効回答の得られた大学生64名（男性9名、女性55名、平均年齢20.08歳）とその母親（平均年齢50.73歳）のペア・データを分析対象とした。

### 2.2 測定内容

#### 2.2.1 母親のソーシャルスキル

相川と藤田<sup>14)</sup>の計35項目の尺度を使用し、母親自身に回答を求めた。コミュニケーション・スキルの側面として「解説」、「記号化」、「感情統制」、対人スキルの側面として「関係開始」、「関係維持」、「主張性」という6つの下位尺度から成る。藤本と大坊<sup>15)</sup>

の議論を援用すると、コミュニケーションスキルは基礎的なスキル、対人スキルは具体的な対人場面で発揮される行動特徴としてのスキルであり、前者が後者の基盤として位置づけられる。回答方法は「ほとんどあてはまらない(1)」～「かなりあてはまる(4)」の4件法を用いた。

#### 2.2.2 母親の養育態度に対する子どもの評価

Parker et al.<sup>12)</sup>のPBI(Parental Bonding Instrument)について、井上<sup>13)</sup>はPBIをもとにした尺度の因子分析から「情愛」「依存期待」「決定尊重」の3次元を抽出し、子どもである大学生に回答させた。PBIの原版は「Care」「Overprotection」の2因子計25項目であるが、井上<sup>13)</sup>による因子分析では「情愛」「依存期待」「決定尊重」の3因子計22項目が採用されている。「いつも温かくて親しみのある声で話しかけてくれた」などの「情愛」9項目、「私のことがいなければ自分のことも処理できないと思っていた」など「依存期待」7項目、「私の望みのままに自由にさせてくれた」などの「決定尊重」6項目である。回答方法は、井上<sup>13)</sup>と同様に「全くあてはまらない(1)」～「非常によくあてはまる(6)」の6件法であった。また「中学・高校生だった頃」を想起しながら母親の養育態度を記入するように求めた。

#### 2.2.3 個人属性等

回答者の個人属性として、年齢、性別、きょうだい数と出生順位（子どものみ）、第一子出産時の年齢（母親のみ）をたずねた。

#### 2.3 手続き

X大学の講義終了後の時間を利用して、子どもに母親用と子ども用の質問紙を配付した。母親には、封筒に入れて密封された母親用の質問紙を子どもから手渡されるようにして配布した。無記名で調査を実施し、母親へは回答後の質問紙を封筒に入れて封をし、子どもへ渡すように質問紙内で教示した。翌週に再度調査者が同じ講義教室に赴き、講義の開始前ないし終了後に、密封された回答済みの質問紙を回収した。

#### 2.4 倫理的配慮

調査への協力は自由意思にもとづき、回答しなくても不利益を受けることはないこと、結果は統計的に処理し個人が特定されることはないこと、質問紙およびデータの管理は厳重に行うこと、答えたくない場合は白紙のまま提出して良いことを口頭で説明した。質問紙にも同様の内容を記載し、研究者に質問紙が返送されたことをもって同意とみなした。なお、本研究は公益社団法人日本心理学会が定める「公益社団法人日本心理学会倫理規程（第3版）」に準拠して作成された、川崎医療福祉大学臨床心理学科「卒

業研究に関する倫理指針」に沿って、指導教員の指導と監督のもとで実施した。

### 3. 結果

#### 3.1 尺度の信頼性と記述統計量

各ソーシャルスキルと養育態度の各下位尺度における信頼性係数 (Cronbach の  $\alpha$  係数)、および平均点と標準偏差を表1に示す。ソーシャルスキルの「関係維持」については信頼性係数が低かったため、以後の分析からは除外することとした。その他の尺度における信頼性係数は0.70以上であり若干低いものも含まれるが、いずれも許容範囲内であると判断した。各尺度の平均値について、回答者の個人属性、すなわち自身の年齢、子ども (大学生) における性別、きょうだいの人数、出生順位、母親における第一子出産時の年齢との関連を調べたが、統計的に有意なものはいずれもみられなかった。

#### 3.2 ソーシャルスキルと養育態度の相関関係

ソーシャルスキルのうち信頼性係数の低かった「関係維持」を除く5尺度と養育態度の各下位尺度間での相関係数を算出し、無相関検定をおこなった (表2)。その結果、分析に用いたソーシャルスキルの5つの下位尺度すべてで養育態度の「決定尊重」との間に有意な相関があった (コミュニケーション・スキルの「感情統制」との間には負、他はすべて正の相関)。また、コミュニケーション・スキルの「記号化」は養育態度の「情愛」とも有意な正の相関があった。なお、ソーシャルスキルの5尺度間では、コミュニケーション・スキルの「解釈」と「感情統制」の相関を除くすべてで有意ないし有意傾向の相関があった。養育態度の3下位尺度間では「情愛」と「依存期待」の間に負の相関がある一方、決定尊重と他の2尺度間の相関は有意ではなかった。

表1 各指標の信頼性係数と記述統計量

変数	カテゴリー	下位尺度	信頼性係数	平均値	標準偏差
ソーシャルスキル	コミュニケーション・スキル	解釈	0.87	17.97	2.98
		記号化	0.79	10.94	2.54
		感情統制	0.70	9.91	2.12
	対人スキル	関係開始	0.92	21.05	4.34
		関係維持 <sup>#</sup>	0.43	—	—
養育態度		主張性	0.74	15.66	3.33
		情愛	0.91	42.00	7.35
		依存期待	0.75	16.92	6.37
		決定尊重	0.81	14.91	2.92

<sup>#</sup>信頼性係数が低かったため、以後の分析には使用しないこととした。

表2 指標間の相関係数

変数	カテゴリー	下位尺度	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
ソーシャルスキル	コミュニケーション・スキル	解釈	①	—						
		記号化	②	.31 *	—					
		感情統制	③	-.03	-.37 **	—				
	対人スキル	関係開始	④	.21 †	.65 ***	-.33 **	—			
		主張性	⑤	.22 †	.33 **	-.34 **	.47 ***	—		
養育態度		情愛	⑥	.24 †	-.10	.33 **	-.11	-.12	—	
		依存期待	⑦	-.20	.10	-.17	.01	.22 †	-.51 ***	—
		決定尊重	⑧	.62 ***	.53 ***	-.32 *	.72 ***	.58 ***	.11	-.12

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , † $p < .10$

3.3 ソーシャルスキルがもたらす養育態度への影響

養育態度のうちソーシャルスキルの各下位尺度と有意な関連のあった「情愛」と「決定尊重」を従属変数とし、構造方程式モデリングによるパス解析(潜在変数を仮定せず観測変数同士の関係を扱った分析)を行った(図1)。分析には Amos 21を使用した。ソーシャルスキルについては、藤本と大坊<sup>15)</sup>の主張に沿って、コミュニケーション・スキルを対人スキルの基盤とする階層構造を仮定した。モデルの適合度指標は、GFI=.944, AGFI=.857, RMSEA=.065, CFI=.983 であり、AGFI が若干低く RMSEA がやや高いものの、許容範囲内であると判断した。

その結果、養育態度に対するソーシャルスキルからの影響としてもっとも顕著であったのは、コミュニケーション・スキルの「記号化」から対人スキルの「関係開始」を介して養育態度の「決定尊重」を高めるというパスであった。その他、コミュニケーション・スキルの「解説」から養育態度の「決定尊重」および「情愛」への直接のパスも有意であった。コミュニケーション・スキルの「感情統制」からは、「主張性」の抑制を介して養育態度の「決定尊重」を低める影響がある一方、対人スキルを介さずに養育態度の「情愛」を高める有意なパスもみられた。

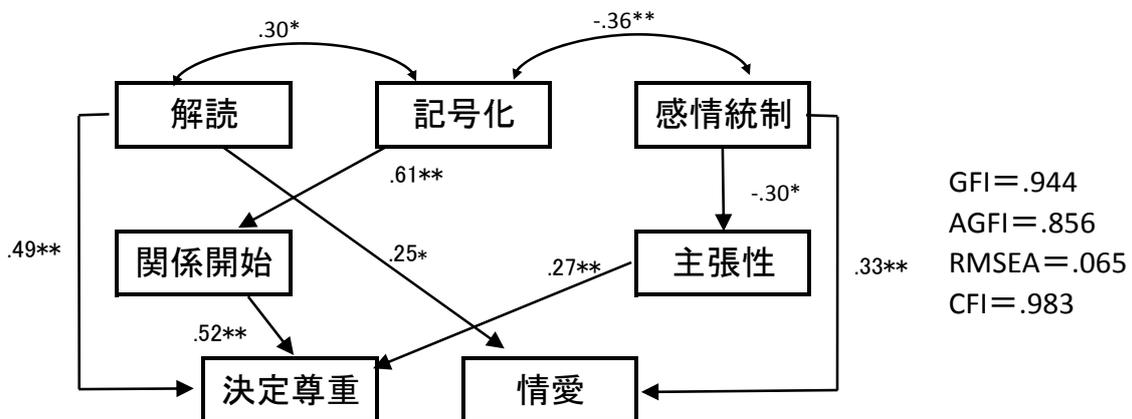
4. 考察

4.1 母親のソーシャルスキルと子どもが評価する母親の養育態度の関連について

母親のソーシャルスキル得点と子どもの評価する母親の養育態度の関係について分析した結果、「関係維持」以外の多くのソーシャルスキルが、養育態

度の「決定尊重」との間に有意な関連を示し、養育態度の「情愛」はコミュニケーション・スキルの「感情統制」と有意な関連を示した。また、パス解析において、コミュニケーション・スキルの「記号化」が対人スキルの「関係開始」に正の影響を与え、さらに「関係開始」が養育態度の「決定尊重」の生起に影響を与えるプロセスと、コミュニケーション・スキルの「感情統制」が対人スキルの「主張性」に負の影響を与え、そして「主張性」が養育態度の「決定尊重」の生起に影響を与えるプロセスが認められた。コミュニケーション・スキルの「解説」は養育態度の「決定尊重」と「情愛」、感情統制は、養育態度の「情愛」に単独で正の影響をもたらしていた。これらの結果からは、子どもが評価する母親の優しさや温かみを感じられる養育態度には「解説」、「感情統制」のスキルがその基盤となり、子どもの考えを尊重する養育態度には「解説」、「記号化」、「感情統制」、「関係開始」、「主張性」のスキルがその基盤となることが示唆される。「関係開始」と「主張性」が対人スキルであることから、「解説」により子どもの考えや感情を把握したうえで「記号化」により自分の意図や感情を子どもに正確に伝える母親の適切な対人反応や、「感情統制」により自分の感情を抑えたうえで「主張性」で適切に子どもに考えを伝えることができる母親の対人反応は、子どもの考えを尊重する受容的な養育態度に影響することが考えられる。そしてこのような本研究の結果は、渡辺<sup>2)</sup>の説明する親子のための基本スキルで求められているソーシャルスキルと、それによって促される養育態度に関する事前の予想とも一致する。

他方、「関係開始」が養育態度の「依存期待」に



注：図中の数値は標準化係数を示す。誤差項および誤差項同士の相関に関する記載は省略している。  
\*\*p<.01, \*p<.05.

図1 子どもが評価する母親の養育態度に及ぼす母親のソーシャルスキルのパス・ダイアグラム

負の影響を与えることも予想されたが、養育態度の「依存期待」はソーシャルスキルと有意な関連が見られなかった。このことから、子どもとの関連に依存的になる母親の養育態度は、ソーシャルスキルとは関連がないことが考えられる。

また、「関係維持」が「情愛」の養育態度に関連することも予想されたが、「情愛」はソーシャルスキルの「解説」と「感情統制」と関連しており、「解説」により子どもの考えや感情を把握することや、「感情統制」で自分の感情を抑制した母親の対人反応が、子どもが優しさや温かみを感じられる養育態度に影響することが考えられた。これは、関係を保つような具体的な対人スキルではなく、子どもや自分自身の感情を理解したうえで、自分の感情を統制できる基礎的なコミュニケーション・スキルが、子どもが母親に感じる優しさや温かさに影響していることが考えられる。

これまでの養育態度の影響要因についての研究では、母親の属性やパーソナリティ、または子どもの出生順位といった属性が母親の養育態度の要因として挙げられていたが<sup>16,17)</sup>、母親が持つ対人関係を円滑に営む具体的な技術であるソーシャルスキルとの関連は明らかではなかった。母親のソーシャルスキルは、子どもが評価する母親の優しさや温かみを感じられる養育態度や、子どもの意思を尊重する養育態度に影響を与えており、様々な対人関係に共通して発揮し得る母親の汎用的な技術は、子どもという特定の対象への受容的な態度や行動に反映されると考えられる。

#### 4.2 ソーシャルスキルによる母親の養育態度と子どもへの影響について

本研究では、母親の養育態度のうち「情愛」と「決定尊重」が、ソーシャルスキルによって影響を受けていることが示された。「情愛」は、子どもに優しさや温かみを持って接する養育態度であり、「決定尊重」は、子どもの自主的・自立的な判断を促し尊重する養育態度である。本研究では養育態度と子どもの社会的発達の間を直接には取り扱っていないが、このような優しさや温かみを感じられる態度で自主的・自律的な判断を促す働きかけは、子どもが外の世界を積極的に探索し、より多くの社会的相互作用が可能になるよう導くものである。これらはいわゆる受容的な養育態度と相まって、子どもの自尊心を支え、社会的な発達をもたらすことになると考えられる。

#### 4.3 本研究の問題点・改善点

本研究は、X大学の大学生のみが対象であり、サンプル数も64部と少なく、男女比も極端に不均衡であった。サンプル数については、予測変数が5つ以下の場合は「50+予測変数の数」を分析上不可欠なサンプル数の下限値とするという目安（rule of thumb）が提案されており<sup>18)</sup>、本研究はこれをおろそかに上回っている。しかし、この目安が妥当であったとしても、あくまで下限値よりは上であるに過ぎない。より安定した一般性の高い結果を得るために、より多様性の高く大規模なサンプルを対象とする必要がある。

また、本研究で測定された母親のソーシャルスキルは現在におけるものであった。それに対して、大学生の子どもが評価した母親の養育態度は「子どもが中学・高校生だった頃」のものであった。この場合、測定されたソーシャルスキルは、「子どもが中学・高校生だった頃」の母親のソーシャルスキルとは一致していない可能性がある。母親のソーシャルスキルと現在の養育態度を同時に調査することができれば、母親のソーシャルスキルと養育態度についての関連をより確実に捉えることができると考えられる。

なお、本研究では母親の養育態度について、母親自身ではなく（その子どもである）大学生の回答を分析した。これは緒言でも述べたように、養育態度の子どもへの影響に関する先行研究において、子どもによる養育態度の認知が重視されてきたことによる。ただし、子どもによる認知は、母親の客観的な行動特徴を正確に反映したものとは限らない点には注意が必要である。本研究のアプローチは、スキルと行動との客観的な関係性を扱っているわけではなく、その有用性はあくまで、子どもの発達に影響し得る養育態度の背景としてのソーシャルスキル獲得の必要性を示唆する、という点にあると言える。

#### 4.4 結論

本研究では大学生とその母親を対象として、母親自身の回答するソーシャルスキルと大学生が評価する養育態度との関連を検討した。その結果、母親のソーシャルスキルは、子どもの意思を尊重する養育態度（「決定尊重」）、および優しさや温かみを感じられる養育態度（「情愛」）に有意な影響を与えていた。様々な対人関係に共通して発揮し得る母親の汎用的なソーシャルスキルは、子どもという特定の対象への受容的な養育態度に反映されると考えられる。

## 謝 辞

本論文は第一著者が2018年度に川崎医療福祉大学医療福祉学部臨床心理学科に提出した卒業論文を修正し、書き改めたものです。調査へのご理解とご協力をくださいました回答者の皆様方に感謝申し上げます。なお、本論文の一部の内容は岡山心理学会第66回大会（2018年12月）において発表されたものです。

## 注

- †1) 著者の所属する大学では、卒業論文の研究については倫理委員会の審査対象とされておらず、各学科において指導教員の責任の下、必要な倫理的配慮をおこなうこととなっている。他方、所属学科では必要な倫理規程を定め、それを遵守することが義務づけられており、本研究もこの慣例に従った。

## 文 献

- 1) 福岡県立社会教育総合センター：平成14年度「福岡県における中学生の意識・行動と親の養育態度・意識の実態調査のまとめ」。福岡県立社会教育総合センター，福岡，2001。
- 2) 渡辺弥生：親子のためのソーシャルスキル。サイエンス社，東京，2005。
- 3) 川合貞子：養育態度。岡田正章，千羽喜代子他編，現代保育用語辞典，フレーベル館，東京，438，1997。
- 4) 戸ヶ崎泰子，坂野雄二：母親の養育態度が小学生の社会的スキルと学校適応におよぼす影響—積極的拒否型の養育態度の観点から—。教育心理学研究，45(2)，173-182，1997。
- 5) 小高恵：大学生の母子関係とパーソナリティとの関連性についての一研究。太成学院大学紀要，19，53-62，2017。
- 6) 中台佐喜子，金山元春，前田健一：母親の養育態度が幼児の問題行動に及ぼす影響—養育態度→家庭における問題行動→園における問題行動というプロセスの検討—。広島大学心理学研究，4，151-157，2004。
- 7) 大和美季子，吉岡和子：きょうだいに対する劣等感と養育態度の認知との関連。福岡県立大学人文社会学部紀要，20(1)，61-69，2011。
- 8) 北村美緒：枠の設定に着目した親子関係尺度作成の試み。学習院大学人文科学論集，20，153-169，2011。
- 9) 村井則子：母親の心理学—母親の個性・感情・態度—。東北大学出版会，仙台，2002。
- 10) 相川充：きょうだい構成が子どものソーシャルスキルの程度に与える影響。東京学芸大学紀要，総合教育科学系，61(1)，91-105，2010。
- 11) 福井義一，鈴木直人：Symondsの養育態度尺度再考—量の尺度化の試み及びその信頼性と妥当性の検討—。同志社心理，(54)，39-48，2007。
- 12) Parker G, Tupling H and Brown LB : A Parental Bonding Instrument. *British Journal of Medical Psychology*, 52(1), 1-10, 1979.
- 13) 井上俊哉，大井京子，西村純一，井森澄江，齊藤こずゑ：親子関係の生涯発達心理学的研究（II）—PBIとIPAの尺度の再検討—。東京家政大学研究紀要，1，人文社会科学，46，245-251，2006。
- 14) 相川充，藤田正美：成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の構成。東京学芸大学紀要，第1部門，教育科学，56，87-93，2005。
- 15) 藤本学，大坊郁夫：コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層的構造への統合の試み。パーソナリティ研究，15(3)，347-361，2007。
- 16) 田淵創：親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討。関西学院大学社会学部紀要，(27)，67-77，1973。
- 17) 田淵創：母親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討（II）。川崎医療福祉学会誌，3(2)，35-45，1993。
- 18) VanVoorhis CW and Morgan BL : Understanding power and rules of thumb for determining sample sizes. *Tutorials in Quantitative Methods for Psychology*, 3(2), 43-50, 2007.

（令和元年7月16日受理）

## Relationship Between Mother's Social Skills and Evaluation of Mother's Parenting Practices by University Students

Natsuki ONO, Yuri NAKAMURA and Yoshiharu FUKUOKA

(Accepted Jul. 16, 2019)

**Key words** : social skill, parental attitude, mother-child relationship, university students

### Abstract

The relationships between maternal social skills and child-rearing attitudes were investigated. Participants were the 64 pairs of college students and their mothers that were recruited from X University at the end of classes. The participants voluntarily and anonymously provided information for this study. The college students responded on their mothers' child-rearing attitudes and the mothers responded regarding their social skills. Child-rearing attitudes were assessed using three subscales: feeling of affection, expectancy of dependence, and respect for decision-making. Social skills were composed of communication skills and interpersonal skills. The subscales assessing the former consisted of decoding, encoding, and emotional regulation. Among the subscales of the latter, relationship building and assertiveness were used based on the reliability coefficients of them. Path analysis through structural equation modeling indicated the significant indirect effect of encoding on respect for decision-making mediated by relationship building as the most salient. It also indicated some other significant direct and indirect effects of social skills on respect for decision-making and feeling of affection of child-rearing attitudes. These results suggest that maternal social skills are the bases of mothers' child-rearing attitudes with kindness and warmth and with encouragement of child's decision-making, which is assumed to influence their children's social adjustment.

Correspondence to : Natsuki ONO

Master's Program in Clinical Psychology  
Graduate School of Health and Welfare  
Kawasaki University of Medical Welfare  
Kurashiki, 701-0193, Japan  
E-mail : [w5218010@kwmw.jp](mailto:w5218010@kwmw.jp)

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.29, No.1, 2019 153–160)